



授業研究を一步先へ!

実践事例の紹介～勝央町立勝央中学校の取組～

©県「ももっち・うらっちと仲間たち」

今号では、「目指す生徒像」の実現に向けて、個々の先生方が「ジブンゴト」として授業改善に挑戦している勝央町立勝央中学校の取組を紹介します。

取組を始めたきっかけ



研究主任 柴原 教諭

昨年度までは、先生方の個々の実践を校内の教員向け通信で紹介していましたが、**一方通行の発信だけでは、先生方の主体性が高まりにくかった**ことから、**教科や学年を越えて授業について語り合う場を設けることが大事だ**と考えました。そこで、今年度は、**クラウドを活用して各自が取組を発信**することで、上記のような教職員集団に近づくことに挑戦しました。

実際取組～クラウドを活用した実践共有の場～

Point① 【ジブンゴトにするPDCAサイクルの活性化】

- ・年度初めに教職員全員で**目指す生徒像※**を設定。
- ・目指す生徒像に向け、**授業改善のPDCA**を**短期間でジブンゴトとして繰り返すためにクラウドを活用**。
- ・設定した目指す生徒像をキーワードとして、**他教科で生徒に変容が見られた取組を自身の教科でも実践**。※「自他を共に認め合い主体的に学び続ける生徒」

Point② 【クラウド活用で意欲向上と対話促進】

- ・研究主任等の**提案授業**を参考に、個々の教員で授業改善を進め、実践した授業映像等を**クラウド上で発信(Sho-Stagram:右記参照)**。
- ・その投稿に対して、**生徒の姿を基にコメントを記入**。
- ・投稿(授業)についてのフィードバックが行われることで、**次の実践に向けて意欲が向上**。
- ・発信をきっかけとし、相互授業参観が増加。
- ・楽しみながら授業改善を進める様子が学校全体に広がり、**学年や教科を越えた対話**が実現。



授業参観後の先生の感想例

全体交流の後に、大切だと思うことをペアで話し合っ理解を深めることができていた。生徒だけの話し合いであそこまでできるなら、**目指す生徒像に向けて、自分の授業でも、生徒にもっと学びを委ねていこう**と思いました。

Sho-Stagramの取組

しょう (勝-スタグラム)



1005 二枝先生短歌の授業

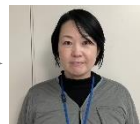
#短歌に夢中#みんなまとめた紙をずっと見ている
#作者名は伏せている#この作品すげーと声があがる
#自他を共に認め合う活動

SNS風の写真や動画に#(ハッシュタグ)を付け気軽に投稿することができる。

投稿に対してコメントを書き込み、教員間の**コミュニケーションが促進**される。

校内の教員の声

クラウドを活用し対話を重ねることで、一部の先生の取組に留まらず、学校全体の取組になっていきました。日常的な授業についてのフィードバックを楽しみにしている先生が多く、一人一回の授業公開に前向きに取り組めるようになりました。



授業改革推進員 大谷 指導教諭



浦島 校長

先生の学びと生徒の学びは相似形です。校内研修で先生たちが学んだことが授業で生かされ、生徒の学びの姿も変わってきています。生徒の姿が変容していくことに先生たちが手応えを感じ、主体的に改善の取組が行われています。



個々の取組を「見える」ようにしたことが、先生同士の対話を生むきっかけになったんだね。対話を重ねて、普段から先生たちが子どもの変容を見取る機会があるから、授業改善が進んでいくね。